

1990年 大会記録

国際

◇ボディブニー国際大会=男子グレコローマン(1月26~28日、ソ連・ロストフ)

▼48kg級 大橋正教(ユナイテッドスティール) = 4位、佐々木昌常(自衛隊) = 3位、蝦名康一(自衛隊) = 6位、▼52kg級 西見健吉(自衛隊) = 5位、中森昭平(警視庁) = 二失、清水光二(日体大) = 二失、▼57kg級 藤岡道三(日体大) = 5位、花原大介(日体大) = 6位、▼62kg級 西口茂樹(日体大助) = 5位、出口泰三(和歌山県教委) = 二失、▼68kg級 今村浩之(日体大) = 4位、▼74kg級 伊藤広道(自衛隊) = 二失、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 5位

◇ダウン国際大会=男子フリースタイル(2月8~11日、イラン・テヘラン)

▼48kg級 小林孝至(ユナイテッドスティール) = 二棄、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 二失、藤村和人(日大) = 二失、▼57kg級 金浜良(ユナイテッドスティール) = 4位、角地山豊(警視庁) = 3位、▼62kg級 奥山恵二(日体大) = 三棄、安達巧(日体大研) = 三失、▼68kg級 赤石光生(ユナイテッドスティール) = 3位、▼90kg級 太田章(早大助) = 四失、▼90kg級 赤石明雄(東山梨教育事務所) = 二失

◇マラル・カップ=男子グレコローマン(2月9~11日、スウェーデン・ベステラス)

▼48kg級 大橋正教(ユナイテッドスティール) = 3位、佐々木昌常(自衛隊) = 4位、蝦名康一(自衛隊) = 9位、▼52kg級 西見健吉(自衛隊) = 三失、中森昭平(警視庁) = 8位、清水光二(日体大) = 二失、▼57kg級 藤岡道三(日体大) = 6位、花原大介(日体大) = 7位、▼62kg級 西口茂樹(日体大助) = 9位、出口泰三(和歌山県教委) = 三失、▼68kg級 今村浩之(日体大) = 9位、▼74kg級 伊藤広道(自衛隊) = 9位、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 3位

◇ヤシャ・ドク国際大会=男子フリースタイル(2月17~18日、トルコ・イスタンブール)

▼52kg級 藤村和人(日大) = 6位、▼57kg級 金浜良(ユナイテッドスティール) = 6位、角地山豊(警視庁) = 5位、▼62kg級 奥山恵二(日体大) = 三失、安達巧(日体大研) = 優勝、▼68kg級 赤石光生(ユナイテッドスティール) = 優勝、▼90kg級 太田章(早大助) = 一棄、▼90kg級 赤石明雄(東山梨教育事務所) = 五失

◇ニコラ・ペトロフ国際大会=男子グレコローマン(2月16~18日、ブルガリア・バル)

ナ)

▼48kg級 大橋正教 (ユナイテッドスティール) = 二失、佐々木昌常 (自衛隊) = 三失、蝦名康一 (自衛隊) = 四失、▼52kg級 西見健吉 (自衛隊) = 5位、中森昭平 (警視庁) = 四失、清水光二 (日体大) = 二失、▼57kg級 藤岡道三 (日体大) = 三失、花原大介 (日体大) = 二失、▼62kg級 西口茂樹 (日体大助) = 5位、出口泰三 (和歌山県教委) = 四失、▼68kg級 今村浩之 (日体大) = 二失、▼74kg級 伊藤広道 (自衛隊) = 三失、▼90kg級 森山泰年 (自衛隊) = 4位

◇メドベジ国際大会=男子フリースタイル (3月2~4日、ソ連・ミンスク)

▼48kg級 小林孝至 (ユナイテッドスティール) = 三失、▼52kg級 笹山秀雄 (自衛隊) = 二失、藤村和人 (日大) = 6位、▼57kg級 金浜良 (ユナイテッドスティール) = 二失、角地山豊 (警視庁) = 二失、▼62kg級 奥山恵二 (日体大) = 三失、安達巧 (日体大研) = 四失、▼68kg級 赤石光生 (ユナイテッドスティール) = 一棄、▼90kg級 太田章 (早大助) = 三失、▼90kg級 赤石明雄 (東山梨教育事務所) = 二失

◇コンコード国際大会=男子グレコローマン (5月26~27日、米国・コンコード)

▼48kg級 森下浩 (日体大) = 5位、▼52kg級 池崎友和 (自衛隊) = 5位、▼57kg級 藤岡道三 (日体大) = 二失、▼62kg級 林雄一 (日体大) = 三失、▼68kg級 三宅靖志 (東海商船) = 三失、▼74kg級 川井孝人 (石川県教委) = 4位、▼82kg級 井勢智則 (日体大) = 三失、▼90kg級 山口孝二 (自衛隊) = 三失、▼130kg級 奈良英則 (警視庁) = 二失

◇北京国際大会 (6月12~13日、中国・北京)

《男子フリースタイル》▼48kg級 平野孝喜 (山梨学院大) = 6位、▼52kg級 笹山秀雄 (自衛隊) = 優勝、▼57kg級 金浜良 (ユナイテッドスティール) = 優勝、▼62kg級 中井直也 (同志社大) = 4位、▼82kg級 石沢常光 (早大) = 2位、▼130kg級 小幡弘之 (警視庁) = 4位

《男子グレコローマン》▼48kg級 大橋正教 (ユナイテッドスティール) = 2位、▼52kg級 西見健吉 (自衛隊) = 2位、▼57kg級 深水真司 (日体大) = 3位、▼68kg級 大久保康裕 (自衛隊) = 2位、▼74kg級 湯浅邦茂 (山梨・甲府養護学教) = 3位

◇US国際トーナメント=男子フリースタイル (6月22~23日、米国・タンパ)

▼48kg級 若松正 (東洋大) = 4位、山下忍 (日体大) = 7位、▼52kg級 下村保伸 (国士舘大) = 二失、清水一成 (日体大) = 5位、▼57kg級 山下勝 (国士舘大) = 二失、佐藤貢 (日体大) = 8位、▼62kg級 鈴木信行 (日体大) = 二失、松田昌明 (国士舘大) =

二失、▼68kg級 太田拓弥（日体大）＝8位、吉本収（国士舘大）＝7位、▼74kg級 浦田義慎（日体大）＝四失、▼82kg級 石沢常光（早大）＝三失

◇カナダ・カップ＝男子フリースタイル（6月30日～7月1日、）

▼48kg級 若松正（東洋大）＝4位、山下忍（日体大）＝二失、▼52kg級 下村保伸（国士舘大）＝二失、清水一成（日体大）＝2位、▼57kg級 山下勝（国士舘大）＝3位、佐藤貢（日体大）＝三失、▼62kg級 鈴木信行（日体大）＝二失、松田昌明（国士舘大）＝三失、▼68kg級 太田拓弥（日体大）＝二失、吉本収（国士舘大）＝6位、▼74kg級 浦田義慎（日体大）＝二失、▼82kg級 石沢常光（早大）＝3位

◇世界選手権＝女子（6月29日～7月1日、スウェーデン・ルレア）

▼44kg級 吉村祥子（代々木ク）＝優勝、▼47kg級 田中真由美（日女体大）＝4位、▼50kg級 福原邦子（朝日住建日体ク）＝5位、▼53kg級 遠藤美子（東洋大）＝2位、▼57kg級 坂本涼子（中京女大）＝3位、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）＝2位、▼65kg級 飯島晶子（朝日住建日体ク）＝優勝、▼70kg級 岩間利香（ユナイテッドスティール）＝優勝、▼75kg級 浦野弥生（日体大）＝優勝

◇世界カデット選手権（7月、ハンガリー）

《男子フリースタイル》▼40kg級 山本徳郁（神奈川・桐蔭学園中）＝6位、▼43kg級 長尾勇氣（宮崎・南郷渡川中）＝7位、▼47kg級 山本尚通（千葉・木間ヶ瀬中）＝8位、▼51kg級 伊藤克佳（北海道・旭川東陽中）＝棄権、▼55kg級 水井雅史（東京・京北学園中）＝二失、▼60kg級 宮田和幸（茨城・水戸五中）＝三失、▼65kg級 高橋正樹（千葉・木間ヶ瀬中）＝二失、▼70kg級 青木拓哉（青森・八戸三中）＝二失、▼76kg級 小倉哲志（愛媛・松山久米中）＝二失、▼83kg級 今村雄介（群馬・太田西城中）＝二失、▼95kg級 山野内大二郎（茨城・水戸二中）＝二失

※グレコローマンは出場せず

◇エスポワール・ワールドカップ＝男子フリースタイル（7月20～21日、カナダ・プリンスアルバート）

6位（5敗）

- 1回戦 日本● [4－6] ○カナダ
- 2回戦 日本● [2－8] ○キューバ
- 3回戦 日本● [0－10] ○ソ連
- 4回戦 日本● [3－7] ○米国
- 5回戦 日本● [2－8] ○イラン

《個人順位》▼48kg級 中島税（大東大）＝4位、▼52kg級 朝比奈巖（日体大）＝4位、▼57kg級 入江格（国士舘大）＝5位、▼62kg級 中石義洋（日体大）＝3位、▼68kg級 吉本収（国士舘大）＝6位、▼74kg級 荻田剛志（早大）＝5位、▼82kg級 和田敏行（日体大）＝5位、▼90kg級 藤田和之（日大）＝6位、▼100kg級 岩渕利則（国士舘大）＝6位、▼130kg級 近藤博和（国士舘大）＝5位

◇グッドウイル大会＝男子フリースタイル（7月27～28日、米国・シアトル）＝リーグ戦形式

▼48kg級 平野孝喜（山梨学院大）＝1勝4敗、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）＝2勝3敗、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）＝4位、▼62kg級 安達巧（日体大助）＝3位、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティール）＝3位、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）＝2勝3敗、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝1勝4敗、▼90kg級 赤石明雄（長田玉夫商会）＝2敗3棄権、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）＝5敗、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）＝1勝4敗

◇チェコ国際大会＝男子グレコローマン（7月27～29日、チェコ・プレビザ）

▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）＝優勝、▼52kg級 中森昭平（警視庁）＝5位、▼57kg級 深水真司（日体大）＝4位、▼68kg級 森巧（自衛隊）＝5位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝7位、▼82kg級 小林希（群馬・中之条高教）＝三失、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝三失、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝二失、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝二失

◇世界ジュニア選手権＝男子フリースタイル（7月27～29日、トルコ・イスタンブール）

▼46kg級 下戸正行（京都・網野高）＝三失、▼50kg級 佐藤謙二（国士舘大）＝三失、▼54kg級 石島勇次（山梨学院大）＝二失、▼58kg級 井上威（中大）＝8位、▼63kg級 谷山康隆（国士舘大）＝10位、▼68kg級 小柴健二（日体大）＝8位、▼74kg級 佐藤大（中大）＝一棄、▼81kg級 高木章夫（徳島・穴吹高）＝二失、▼88kg級 風見勝利（東洋大）＝二失、▼115kg級 水倉元（新潟・巻農高）＝6位

◇世界ジュニア選手権＝男子グレコローマン（ 、イスラエル・テリアビブ）

《男子グレコローマン優勝者》▼46kg級 綿引豊（宮崎・宮崎工高）＝二失、▼50kg級 田村英司（徳島・貞光工高）＝二失、▼54kg級 西島隆（日体大）＝9位、▼58kg級 高橋朋雄（山形・東根工高）＝二失、▼63kg級 坂上桂一（日体大）＝6位、▼68kg級 西條倫史（東農大）＝三失、▼74kg級 西岡健二郎（徳島・池田高）＝三失、▼81kg級 市場弘一（大阪・同志社香里高）＝二失、▼88kg級 浪越裕次（青山学院大）＝二失、▼115kg級

級 水倉元（新潟・巻農高）＝二失

◇世界選手権＝男子フリースタイル（9月6～9日、東京体育館）

▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドステイール）＝3位、▼52kg級 高田裕司（山梨学院大教）＝8位、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）＝二失、▼62kg級 安達巧（日体大助）＝4位、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）＝4位、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）＝7位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝四失、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）＝三失、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）＝10位、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）＝二失

◇アジア大会（9月23日～10月4日、中国・北京）

《男子フリースタイル》▼48kg級 山下忍（日体大）＝6位、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）＝2位、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）＝4位、▼62kg級 安達巧（日体大助）＝優勝、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）＝5位、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）＝4位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝5位、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）＝4位、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）＝4位、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）＝4位

《男子グレコローマン》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）＝二失、▼52kg級 中森昭平（警視庁）＝4位、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝二失、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝優勝、▼68kg級 森巧（自衛隊）＝3位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝2位、▼82kg級 小林希（群馬・中之条高教）＝5位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝3位、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝5位、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝3位

◇世界選手権＝男子グレコローマン（11月19～20日、イタリア・ローマ）

▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）＝3位、▼52kg級 中森昭平（警視庁）＝6位、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝4位、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝6位、▼68kg級 森巧（自衛隊）＝10位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝四失、▼82kg級 小林希（群馬・中之条高教）＝三失、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝四失、▼100kg級＝派遣なし、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝四失

◇サンキストカップ＝女子（11月22日、米国・フェニックス）

▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）＝優勝、▼47kg級 山本美憂（朝日住建日体クラブ）＝優勝、田中真由美（日女体大）＝3位、▼50kg級 福原邦子（朝日住建日体ク）＝2位、▼53kg級 東陽子（朝日住建日体クラブ）＝4位、▼57kg級 川崎明美（自衛隊）＝優勝、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドステイール）＝2位、▼65kg級 飯島晶子（朝

日住建日体ク) = 2位、▼70kg 級 浦野弥生 (日体大) = 優勝

◇ハパラダ国際大会=男子グレコローマン (12月14~16日、スウェーデン・ハパラ

ダ)

▼48kg 級 加藤欣央 (東海大) = 4位、大橋正教 (ユナイテッドスティール) = 2位、
▼52kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 3位、▼57kg 級 花原大介 (日体大) = 二失、▼74kg 級
森太郎 (奈良・広陵高教) = 二失

◇エラント国際大会=男子グレコローマン (12月、フィンランド・エラント)

▼48kg 級 加藤欣央 (東海大) = 2位、大橋正教 (ユナイテッドスティール) = 3位、
▼52kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 優勝、▼57kg 級 花原大介 (日体大) = 三失、▼74kg 級
森太郎 (奈良・広陵高教) = 棄権

国内

◇全国高校選抜大会 (3月29~30日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦 (3年連続3回目)、[2] 岐阜・岐阜工、[3] 埼玉・
埼玉栄、宮城・東北電子工

《個人戦優勝者》▼46kg 級 針谷豊 (群馬・西邑楽)、▼50kg 級 島田昭一 (鹿児島・
鹿児島商工)、▼54kg 級 星政宏 (岩手・宮古商)、▼58kg 級 橋本雄次 (茨城・霞ヶ浦)、
▼63kg 級 日比野清二 (岐阜・岐阜工)、▼68kg 級 大竹克矢 (岐阜・岐阜工)、▼74kg
級 有賀浩樹 (岐阜・岐阜工)、▼115kg 級 高柳雄志 (岐阜・岐阜工)

◇全日本ジュニア選手権 (4月2~5日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼46kg 級 針谷豊 (群馬・西邑楽高)、▼50kg 級 佐藤
謙二 (国士舘大)、▼54kg 級 佐藤公一 (秋田・秋田経法大付高)、▼58kg 級 井上威 (中
大)、▼63kg 級 谷山康隆 (国士舘大)、▼68kg 級 小柴健二 (日体大)、▼74kg 級 佐
藤大 (中大)、▼81kg 級 高木章夫 (徳島・穴吹高)、▼88kg 級 風見勝利 (東洋大)、
▼115kg 級 水倉元 (新潟・巻農高)

《男子グレコローマン優勝者》▼46kg 級 綿引豊 (宮崎・宮崎工高)、▼50kg 級 田村
英司 (徳島・貞光工高)、▼54kg 級 西島隆 (日体大)、▼58kg 級 高橋朋雄 (山形・東
根工高)、▼63kg 級 坂上桂一 (日体大)、▼68kg 級 西條倫史 (東農大)、▼74kg 級 佐
藤大 (中大)、▼81kg 級 高木章夫 (徳島・穴吹高)、▼88kg 級 浪越裕次 (青山学院大)、
▼115kg 級 水倉元 (新潟・巻農高)

◇全日本選手権（4月27～29日、東京・駒沢体育館、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドステイール）、▼52kg級 高田裕司（山梨学院大教）、▼57kg級 朝倉利夫（国士舘大教）、▼62kg級 安達巧（日体大助）、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 蝦名康一（自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（警視庁）、▼57kg級 藤岡道三（日体大）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 小林希（群馬・中之条高教）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

◇西日本学生春季新人戦＝男子フリースタイル（4月30日、大阪・桃山学院大）

《優勝者》▼48kg級 田中康也（福岡大）、▼52kg級 田中晃（近大）、▼57kg級 赤瀬功（同志社大）、▼62kg級 工藤誠之（徳山大）、▼68kg級 高田和拓（徳山大）、▼74kg級 奥田真二（同志社大）、▼82kg級 神鷹和昭（桃山学院大）、▼90kg級 大西輝（近大）、▼130kg級 野崎賢治（近大）

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦（5月23～26日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（12年連続14度目）、[2] 国士大、[3] 早大、[4] 日大、[5] 中大、[6] 東洋大、[7] 専大、[8] 大東大

◇西日本学生選手権（5月15～17日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 土屋忠彦（福岡大）、▼52kg級 奥田雅彦（福岡大）、▼57kg級 嶋也幸（徳山大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 高田和拓（徳山大）、▼74kg級 岡田孝志（近大）、▼82kg級 宮崎隆光（桃山学院大）、▼90kg級 安楽純二（同志社大）、▼130kg級 末雄次（徳山大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 池田徹（福岡大）、▼52kg級 小泉円（同志社大）、▼57kg級 赤瀬功（同志社大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 高田和拓（徳山大）、▼74kg級 岡田孝志（近大）、▼82kg級 宮崎隆光（桃山学院大）、▼90kg級 大西博（近大）、▼130kg級 永渕智東（福岡大）

◇エスポワール・ワールドカップ予選＝男子フリースタイル（6月9日、専大、東洋大）

《優勝者》▼48kg級 中島税（大東大）、▼52kg級 朝比奈巖（日体大）、▼57kg級 入江格（国士舘大）、▼62kg級 中石義洋（日体大）、▼68kg級 吉本収（国士舘大）、▼74kg級 荻田剛志（早大）、▼82kg級 和田敏行（日体大）、▼90kg級 藤田和之（日大）、▼100kg級 岩渕利則（国士舘大）、▼130kg級 近藤博和（国士舘大）

◇西日本学生春季リーグ戦（6月30日～7月1日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 同志社大（7季連続15度目）、[2] 福岡大、[3] 徳山大、[4] 近大、[5] 桃山学院大、[6] 名商大

◇全日本女子選手権（5月27日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（代々木ク）、▼47kg級 山本美憂（朝日住建日体ク）、▼50kg級 福原邦子（朝日住建日体ク）、▼53kg級 遠藤美子（東洋大）、▼57kg級 坂本涼子（中京女大）、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）、▼65kg級 飯島晶子（朝日住建日体ク）、▼70kg級 岩間利香（ユナイテッドスティール）、▼75kg級 船越光子（栃木・壬生高）、▼75kg以上級 上野弘子（盛岡大）

◇東日本学生春季新人戦（6月14～16日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 中島税（大東大）、▼52kg級 石島勇次（山梨学院大）、▼57kg級 松野繁（明大）、▼62kg級 中石義洋（日体大）、▼68kg級 宮本健二（日体大）、▼74kg級 中島智彦（中大）、▼82kg級 和田敏行（日体大）、▼90kg級 岩渕利則（国士舘大）、▼90kg以上級 藤田和之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 川田征勝（中大）、▼52kg級 窪木浩（明大）、▼57kg級 入江格（国士舘大）、▼62kg級 林雄一（日体大）、▼68kg級 堀北和久（日体大）、▼74kg級 横山秀和（日体大）、▼82kg級 戸部徹（日体大）、▼90kg級 岩渕利則（国士舘大）、▼90kg以上級 浜上稔（日体大）

◇全日本社会人選手権（6月16～17日、東京・スポーツ会館）

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユナイテッドスティールA、▼クラブ 香川クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 丸山祐司（自衛隊）、▼52kg級 坂木勇夫（長崎県警）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 佐々木一郎（香川県ク）、▼68kg級 吉田実（自衛隊）、▼74kg級 角崎朋博（67ク）、▼82kg級 伊藤敦（京都ク）、▼90kg級 田崎光之（自衛隊）、▼100kg級 水橋徹（千葉県協会）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 丸山祐司（自衛隊）、▼52kg級 池崎友和（自衛隊）、▼57kg級 福崎道大（自衛隊）、▼62kg級 元木康年（自衛隊）、▼68kg級 木村好男（警視庁）、▼74kg級 三宅靖志（東海商船）、▼82kg級 得本啓次（福岡ク）、▼90kg級 田崎光之（自衛隊）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良県協会）、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

◇インターハイ（8月1～4日、宮城・名取市民体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年ぶり4度目）、[2] 岐阜・岐阜工、[3] 埼玉・埼玉栄、宮城・東北電子工

《個人戦優勝者》▼46kg級 針谷豊（群馬・西邑楽）、▼50kg級 勝目力也（静岡・沼津学園）、▼54kg級 星政宏（岩手・宮古商）、▼58kg級 長友一美（宮崎・宮崎一）、▼63kg級 森田俊男（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 平野晴美（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 小野瀬哲也（茨城・霞ヶ浦）、▼115kg級 新明嘉規（千葉・八千代松陰）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月17～19日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼46kg級 佐伯豊（茨城・日立一）、▼50kg級 田村栄司（徳島・貞光工）、▼54kg級 成田広希（岐阜・岐阜工）、▼58kg級 大川卓治（群馬・西邑楽）、▼63kg級 後藤誠一（秋田・秋田商）、▼68kg級 日比野清二（岐阜・岐阜工）、▼74kg級 有賀浩樹（岐阜・岐阜工）、▼81kg級 高木章夫（徳島・穴吹）、▼87kg級 吉田幸司（奈良・添上）、▼115kg級 高柳雄志（岐阜・岐阜工）

◇全日本学生選手権（8月29～9月1日、山梨・山梨学院大）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（日体大）、▼52kg級 水野将嘉（早大）、▼57kg級 佐藤貢（日体大）、▼62kg級 奥山恵二（日体大）、▼68kg級 太田拓弥（日体大）、▼74kg級 大久保啓光（国士舘大）、▼82kg級 石沢常光（早大）、▼90kg級 藤田和之（日大）、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 坂村智紀（東農大）、▼52kg級 清水光二（日体大）、▼57kg級 花原大介（日体大）、▼62kg級 栗本秀樹（日体大）、▼68kg級 今村浩之（日体大）、▼74kg級 植村久弥（日体大）、▼82kg級 佐々木秀幸（日体大）、▼90kg級 浅井努（日体大）、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg級 鈴木賢一（大東大）

◇西日本学生新人戦（9月15～16日、大阪・桃山学院大）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 板谷和雄（近大）、▼52kg級 吉岡和輝（近大）、▼57kg級 岩下政敬（近大）、▼62kg級 中島泰生（桃山学院大）、▼68kg級 成瀬実（桃山学院大）、▼74kg級 藤原教雄（近大）、▼82kg級 川村嘉裕（同志社大）、▼90kg級 野崎賢治（近大）、▼130kg級 大西博（近代）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 板谷和雄（近大）、▼52kg級 田中晃（近大）、▼57kg級 岩下政敬（近大）、▼62kg級 池田展久（桃山学院大）、▼68kg級 戸島孝行（近大）、▼74kg級 神鷹和昭（桃山学院大）、▼82kg級 川村嘉裕（同志社大）、▼90kg級 野崎賢治（近大）、▼130kg級 高岸一郎（同志社大）

◇全日本学生王座決定戦（9月27～28日、東京・駒沢体育館）=決勝成績

日体大○ [5-4] ●日大

※日体大は2年ぶり13度目の優勝

◇国体（10月22～25日、福岡・北九州国際大）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 喜多龍昭（長崎・島原工高教）、▼52kg級 水野将嘉（神奈川・早大）、▼57kg級 佐々木 一郎（香川・県スポーツ事業団）、▼62kg級 中井直也（京都・同志社大）、▼68kg級 太田拓弥（茨城・日体大）、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg級 樋口直巳（三重・桑名工高教）、▼90kg級 赤石明雄（山梨・長田玉夫商会）、▼100kg級 中西学（和歌山・県教育庁）、▼130kg級 鋤崎太（福岡・ローム福岡）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 加藤欣央（石川・東海大）、▼52kg級 西見健吉（埼玉・自衛隊）、▼57kg級 花原大介（茨城・日体大）、▼62kg級 大城利幸（沖縄・丸輝産業）、▼68kg級 木村好男（東京・警視庁）、▼74kg級 湯浅邦茂（山梨・甲府養護学教）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、▼90kg級 東出徹（奈良・高取高教）、▼100kg級 野々村孝（岐阜・山梨学院大）、▼130kg級 出口一也（和歌山・県立体育館）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 田村茂一（青森・青森商）、▼50kg級 中林拓真（北海道・岩見沢農）、▼54kg級 佐藤公一（秋田・秋田経法大付）、▼58kg級 高橋淳（秋田・秋田経法大付）、▼63kg級 原敬（宮崎・宮崎工）、▼68kg級 平野晴美（茨城・霞ヶ浦）、▼74kg級 小野瀬哲也（茨城・霞ヶ浦）、▼81kg級 高木章夫（徳島・穴吹）、▼88kg級 吉田幸司（奈良・添上）、▼115kg級 滝口徹（山形・東根工）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 佐伯豊（茨城・日立一）、▼50kg級 田村栄二（徳島・貞光工）、▼54kg級 吉成雄一（千葉・野田北）、▼58kg級 中谷康栄（富山・高岡一）、▼63kg級 細貝健一（新潟・巻農）、▼68kg級 星野好宣（埼玉・埼玉栄）、▼74kg級 友寄隆康（沖縄・那覇西）、▼81kg級 権瓶広光（新潟・東京学館新潟）、▼88kg級 北村和幸（茨城・土浦日大）、▼115kg級 高柳雄志（岐阜・岐阜工）

◇全日本大学選手権（11月10～11日、石川・志賀町総合体育館）

《優勝者》▼48kg級 山下忍（日体大）、▼52kg級 清水一成（日体大）、▼57kg級 山下勝（国士舘大）、▼62kg級 鈴木信行（日体大）、▼68kg級 太田拓弥（日体大）、▼74kg級 荻田剛志（早大）、▼82kg級 笹原洋一郎（日体大）、▼90kg級 浅井努（日体大）、▼100kg級 なし＝決勝が両者負け、▼130kg級 なし＝決勝が両者負け

《大学対抗得点》[1] 日体大（6年連続13回目）、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇東日本学生秋季新人戦（11月15～17日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 川田征勝（中大）、▼52kg級 窪木浩（明大）、▼57kg級 入江格（国士舘大）、▼62kg級 小倉偉延（専大）、▼68kg級 小柴健二（日体大）、▼74kg級 横山秀和（日体大）、▼82kg級 藤江泰久（山梨学院大）、▼90kg級 和田敏行（日体大）、▼90kg以上級 浜上稔（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大）、▼52kg級 西島隆（日体大）、▼57kg級 尾白賢治（日体大）、▼62kg級 栗本秀樹（日体大）、▼68kg級 林雄一（日体大）、▼74kg級 荻田剛志（早大）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 戸部徹（日体大）、▼90kg以上級 河村勝日体大）

◇全国社会人オープン選手権（11月24～25日、神奈川・横浜消防訓練センター）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 丸山祐司（自衛隊）、▼52kg級 丹治尚弘（愛隣会目黒恵国寮）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 栄和人（京樽）、▼68kg級 藤田隆和（国士舘クラブ）、▼74kg級 杉野浩吉（自衛隊）、▼82kg級 関場輝史（鶴見クラブ）、▼90kg級 石庭新五（アイシン精機）、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級＝参加なし、▼52kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 奥屋敷賢彦（自衛隊）、▼68kg級 安楽清一（海上自衛隊）、▼74kg級 三宅靖志（東海商船）、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）、▼90kg級 石庭新五（アイシン精機）、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）、▼130kg級 神子沢健

一（自衛隊）

◇西日本学生秋季リーグ戦（12月1日～12月2日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 福岡大（8季ぶり14度目）、[2] 同志社大、[3] 徳山大、[4] 近大、[5] 桃山学院大、[6] 関大

◇全日本大学グレコローマン選手権（12月10～11日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大）、▼52kg級 清水光二（日体大）、▼57kg級 深水真司（日体大）、▼62kg級 市口勇志（日大）、▼68kg級 今村浩之（日体大）、▼74kg級 木村成明（拓大）、▼82kg級 金永峰（日大）、▼90kg級 浅井努（日体大）、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg級 小幡弘之（日大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（2年連続2度目）、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇全日本女子オープン選手権（12月23日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼44kg級 上林美穂（羽島市連盟）、▼48kg級 山本美憂（朝日住建ク）、▼50kg級 福原邦子（京樽）、▼53kg級 木村こず恵（東洋大倶楽部）、▼57kg級 坂本涼子（吹田市民教室）、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドステイール）、▼65kg級 飯島晶子（京樽）、▼70kg級 浦野弥生（日体大）、▼75kg級 船越光子（栃木・壬生高）、▼75kg以上級 上野弘子（盛岡大）